

2019 年度 風工学研究拠点 共同研究成果報告書

研究分野：強風防災
研究期間：2019 年度
課題番号：19193004
研究課題名（和文）：
藤田哲也博士の遺した研究資料のデジタルアーカイブ化
研究課題名（英文）：
Digital preservation of research materials left by Dr. Tetsuya Fujita
研究代表者：
野田 稔（高知大学）
交付決定額（当該年度）：150,000円

1. 研究の目的

米国で竜巻やダウンバーストなどの突風被害の研究に取り組みフジタスケールを生み出したシカゴ大学教授、藤田哲也博士が1998年に逝去され、コンテナ2個分に及ぶ膨大な遺品が日本に持ち込まれ、現在九州工業大学の倉庫に保管されてきた。この中には、藤田博士が発表した250篇にわたる研究論文をはじめ、博士が研究遂行の際に撮影したと思われる膨大なスライドやフィルム、写真が含まれている。スライド・フィルム・写真だけでプラスチック衣装ケースにおよそ70箱分あり、その長期にわたる保管は困難極まるものと想像することは難しい。フジタスケールの提案、ダウンバーストの発見など、世界的にも重要な研究成果を収めてきた藤田哲也博士の遺した貴重な研究資料をそのまま霧散させてしまうことは、風工学分野をはじめとして気象学分野などの他分野にとっても極めて重大な損失であると考えられる。そこで、恒久的な物質的保存は不可能と考えられるため、デジタルアーカイブ化し、藤田哲也博士が研究中に収められた無数のスライドや写真、映画などが後世に伝えられるようにすることが本研究の目的である。

2. 研究の方法

学生によるアルバイトを使ってスライドが保管されているシートに記されているメモ書きなどと、個々のスライドの画像データを、フラットベッドスキャナとスライドスキャナを使ってデジタル化する。デジタルアーカイブは、時系列を基本に整理し、1元管理できる形に成型する。また、膨大なデジタルデータについては、研究代表者が所有するファイルサーバー上に蓄積し、内容を確認の上、公開できるものについては一般に公開することを検討する。

3. 研究成果

デジタル化されたスライドの累計数は、39,256枚である。昨年度に比べてデジタル化されたスライド数が減少しているが、スライドのフレームのゆがみなどによりスムーズにスキャンできないものが多くなり、手作業によるスキャンが増えたことでスキャン作業が難航したことが原因である。デジタル化の取り組みについては、日本気象学会2019年度秋季大会で設けられた専門分科会「藤田哲也生誕100年－わが国における竜巻研究－」において、「藤田哲也博士が遺した研究資料のデジタルアーカイブ化」と題して気象関係者に紹介した。また、スライドに含まれる被害写真については、著作権が譲渡されていらず一般公開を実現するにあたって、著作権者との契約を改めて結んでいくことが必要であることが明らかとなり、アーカイブの公開に先立って、米国テキサス工科大学の図書館等と交渉をする必要がある。

4. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者には下線）

〔雑誌論文〕（計0件）

- 1.
- 2.

〔学会発表〕（計1件）

1. 野田 稔, 藤田哲也博士が遺した研究資料のデジタルアーカイブ化, 日本気象学会 2019 年度秋季大会
- 2.

〔図書〕(計0件)

- 1.
- 2.

〔その他, 産業財産権, ホームページ等〕

- 1.
- 2.

5. 研究組織

(1) 研究代表者

野田 稔 (高知大学)

(2) 研究分担者

1. 小林 文明 (防衛大学校)
2. 佐々 浩司 (高知大学)
3. 松田 一俊 (九州工業大学)
4. 松井 正宏 (東京工芸大学)

6. 研究集会の開催

2020年3月16日(月)に東京工芸大学厚木キャンパスにて合同研究会を開催する計画を立てていたが, 新型コロナウイルス感染予防により開催が中止された。

6. 要約(Abstract)

藤田哲也博士の遺した研究資料のデジタルアーカイブ化

野田 稔 (高知大学)

米国で竜巻やダウンバーストなどの突風被害の研究に取り組みフジタスケールを生み出したシカゴ大学教授, 藤田哲也博士が1998年に逝去され, コンテナ2個分に及ぶ膨大な遺品が日本に持ち込まれ, 現在九州工業大学の倉庫に保管されてきた。この中には, 藤田博士が発表した250篇にわたる研究論文をはじめ, 博士が研究遂行の際に撮影したと思われる膨大なスライドやフィルム, 写真が含まれている。スライド・フィルム・写真だけでプラスチック衣装ケースにおよそ70箱分あり, その長期にわたる保管は困難極まるものと想像することは難しくない。フジタスケールの提案, ダウンバーストの発見など, 世界的にも重要な研究成果を収めてきた藤田哲也博士の遺した貴重な研究資料をそのまま霧散させてしまうことは, 風工学分野をはじめとして気象学分野などの他分野にとっても極めて重大な損失であると考えられる。そこで, 恒久的な物質的保存は不可能と考えられるため, デジタルアーカイブ化し, 藤田哲也博士が研究中に収められた無数のスライドや写真, 映画などが後世に伝えられるようにすることが本研究の目的である。

本研究は, 昨年度に引き続いて, スライドスキャナによるスライドスキャン作業が実施され, 累計39,256枚に及んだ。今年度は保存状態の悪いスライドが多く, スキャン作業が難航したため, スキャン枚数は昨年度に比べて減少した。広報活動として, 日本気象学会2019年度秋季大会にて, 本研究の取り組みが気象関係者に紹介された。スライドに含まれる被害写真について, 著作権が譲渡されておらず, 公開のために著作権者との契約を結ぶ必要があることが明らかとなった。